



 **三ツ子産業株式会社**

平成30年5月期 決算説明

(証券コード:3321)

2018年7月19日

1	会社概要	2
2	平成30年5月期 決算概要	8
3	平成30年5月期 貸借対照表の概要	13
4	平成30年5月期 キャッシュフロー計算書の概要	..	14
5	平成31年5月期 業績見通し	15
6	中期経営計画	15
7	株主の皆様への還元方針	17

1-1 会社概要

Creative Innovation

商号 ミタチ産業株式会社

英文 MITACHI CO.,LTD.

創業 1972年9月

設立 1976年7月

本社 〒460-0026
愛知県名古屋市中区伊勢山二丁目11番28号

資本金 8億1,564万5千円

代表者 取締役社長 橘 和博

従業員 連結445名※

単体126名※（※平成30年5月末現在）

事業内容 電子デバイス（半導体・電子部品）の販売

電子デバイスおよび機器の製造、販売

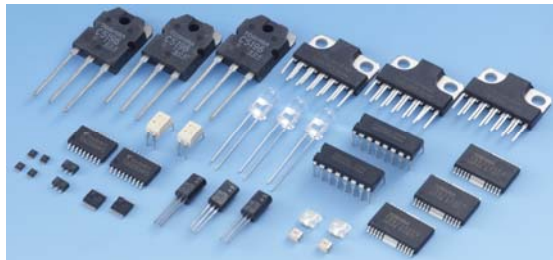
電子機器組立製造装置の販売





電子デバイス

汎用半導体からメモリ、システムLSI、液晶、電子部品、ユニット基板等の販売。多種多様な商材をワンストップで供給。



各種半導体製品



EMS

国内、海外を問わず基板のアッセンブリからユニット、製品の組み立てまで対応。

EMS : Electronic manufacturing service
(電子機器受託製造サービス)



ボードアッセンブリ



製造設備機器

表面実装機・印刷機・リフローをはじめとする電子部品実装ライン、検査機、周辺機器、消耗材や副資材等の販売。



X線検査装置

表面実装機



ODM/OEM

ハードウェア、ソフトウェアの設計者を有し、さまざまなカスタム製品の開発・製造を行っています。

ODM : Original design manufacturing

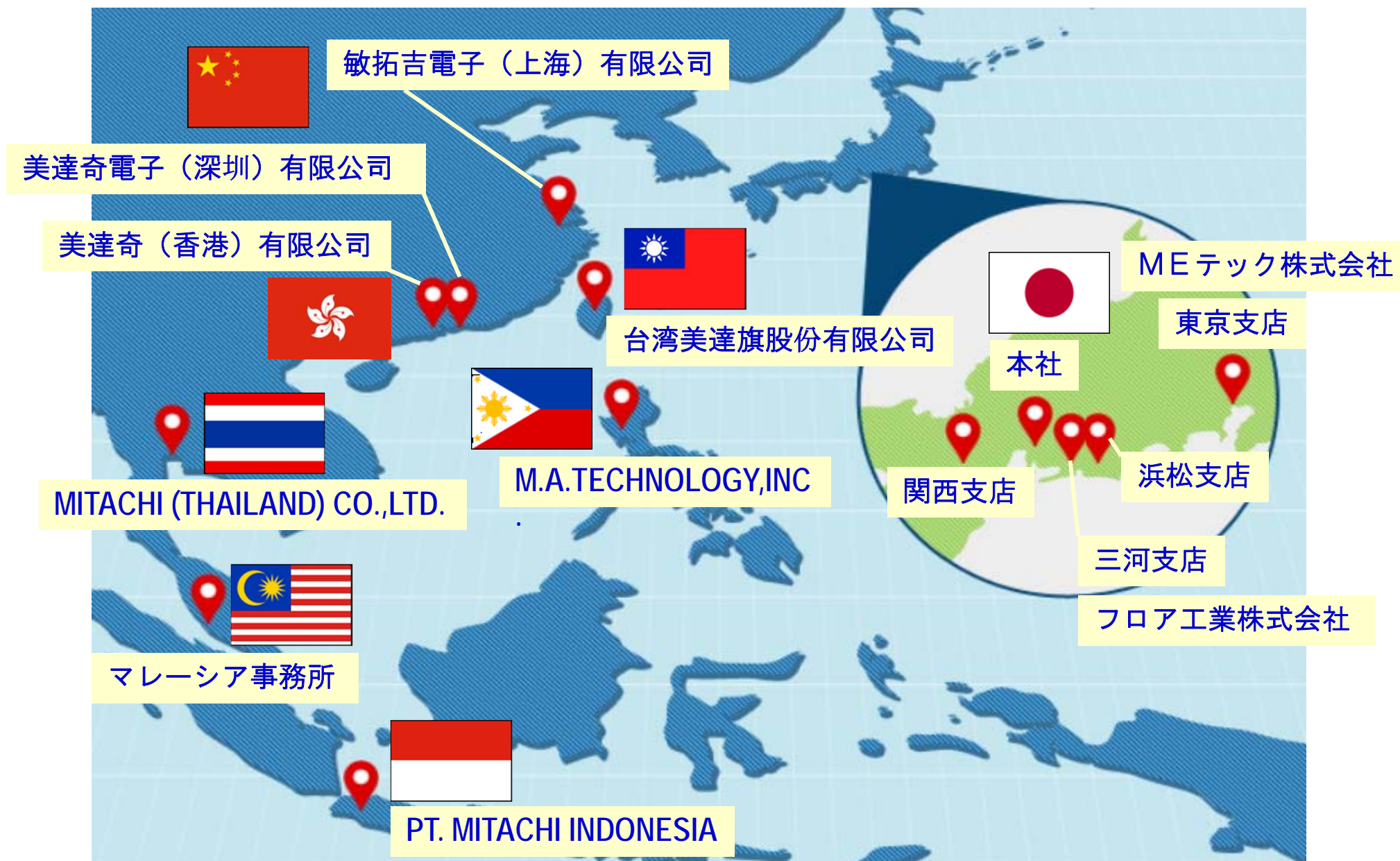
OEM : Original equipment manufacturing




半導体ヒーター

LED照明

1-3 拠点一覧



1-4 沿革

- 
- 1972年9月 創業
 - 1976年7月 ミタチ産業株式会社を設立
 - 1987年4月 (株)東芝と特約代理店契約締結
 - 1996年1月 フィリピンカビテ州において電子部品機器の製造、加工を行うM. A. TECHNOLOGY, INC. の株式取得
 - 2000年8月 M. A. TECHNOLOGY, INC. 第2工場（現 第1工場）竣工
 - 2001年7月 香港において美達奇(香港)有限公司を設立
 - 2003年8月 台湾台北市において台湾美達旗股份有限公司を設立
 - 2004年4月 東京・名古屋証券取引市場第二部上場
 - 2005年5月 東京・名古屋証券取引市場第一部指定
 - 2005年7月 中国上海市において敏拓吉電子(上海)有限公司を設立
 - 2006年5月 M. A. TECHNOLOGY, INC. 第2工場新設
 - 2008年8月 中国深圳市において美達奇電子(深圳)有限公司を設立
 - 2012年9月 タイバンコクにおいてMITACHI (THAILAND) CO., LTD. を設立
 - 2013年10月 インドネシア ジャカルタにおいて PT. MITACHI INDONESIA を設立
 - 2015年6月 タイバンコクにおいて MITACHI TRADING (THAILAND) CO., LTD. を設立
 - 2016年10月 (株)コアテクノロジーとの合併会社 MEテック株式会社を設立
 - 2017年4月 東京支店、MEテック株式会社を千代田区から品川区へ移転
 - 2018年3月 フロア工業(株)を株式取得により子会社化
 - 2018年7月 浜松営業所を浜松支店に昇格



お客様

当社
株主様

仕入先様

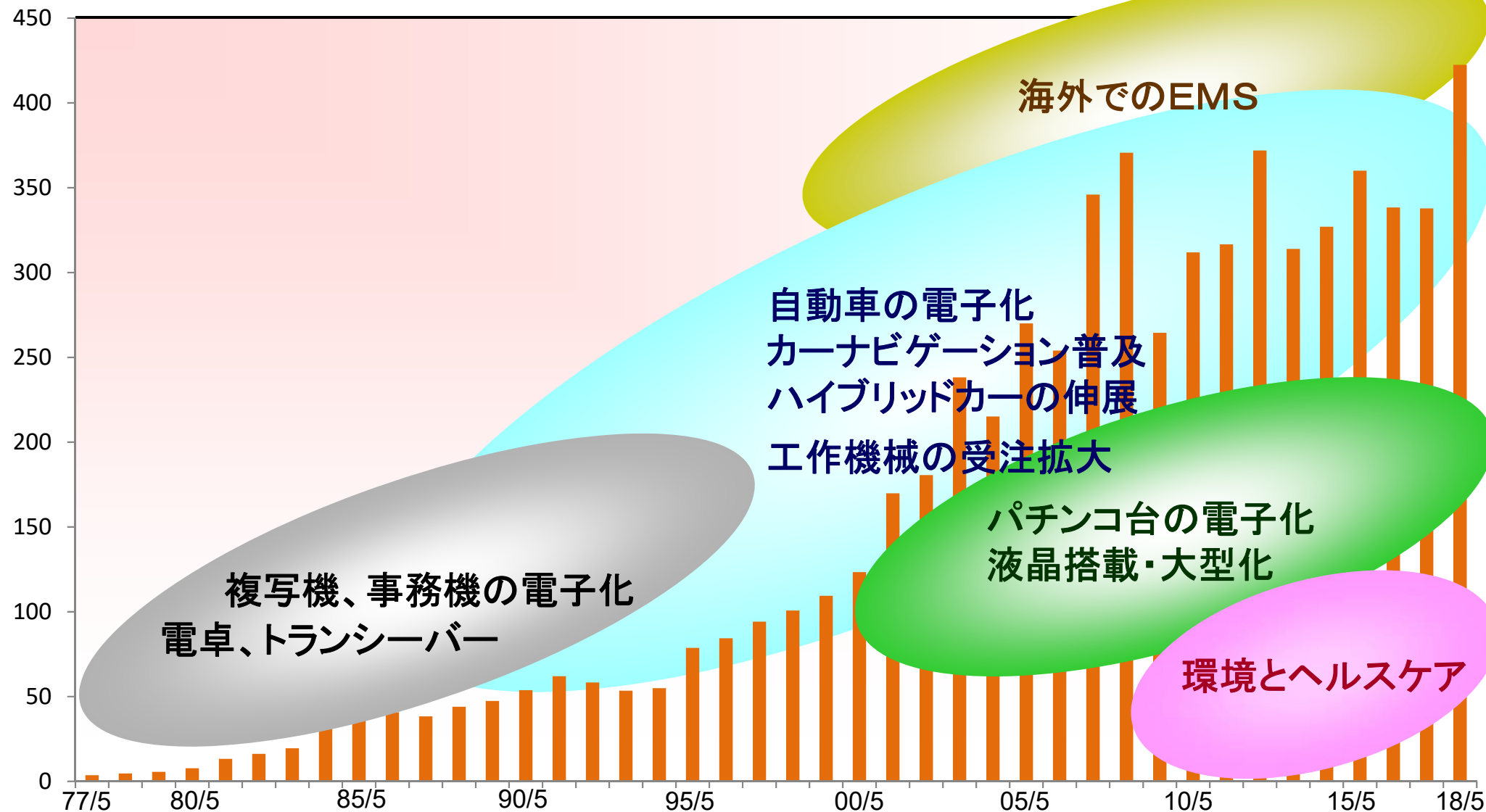
当社の社名は三つで成り立つ(お客様、当社、仕入先様)という三位一体の精神に由来しています。

また当社のシンボルマークはミタチのイニシャル「M」と「ガールの水道橋」のアーチをモチーフに生まれました。

1-6 事業の変遷および業績推移

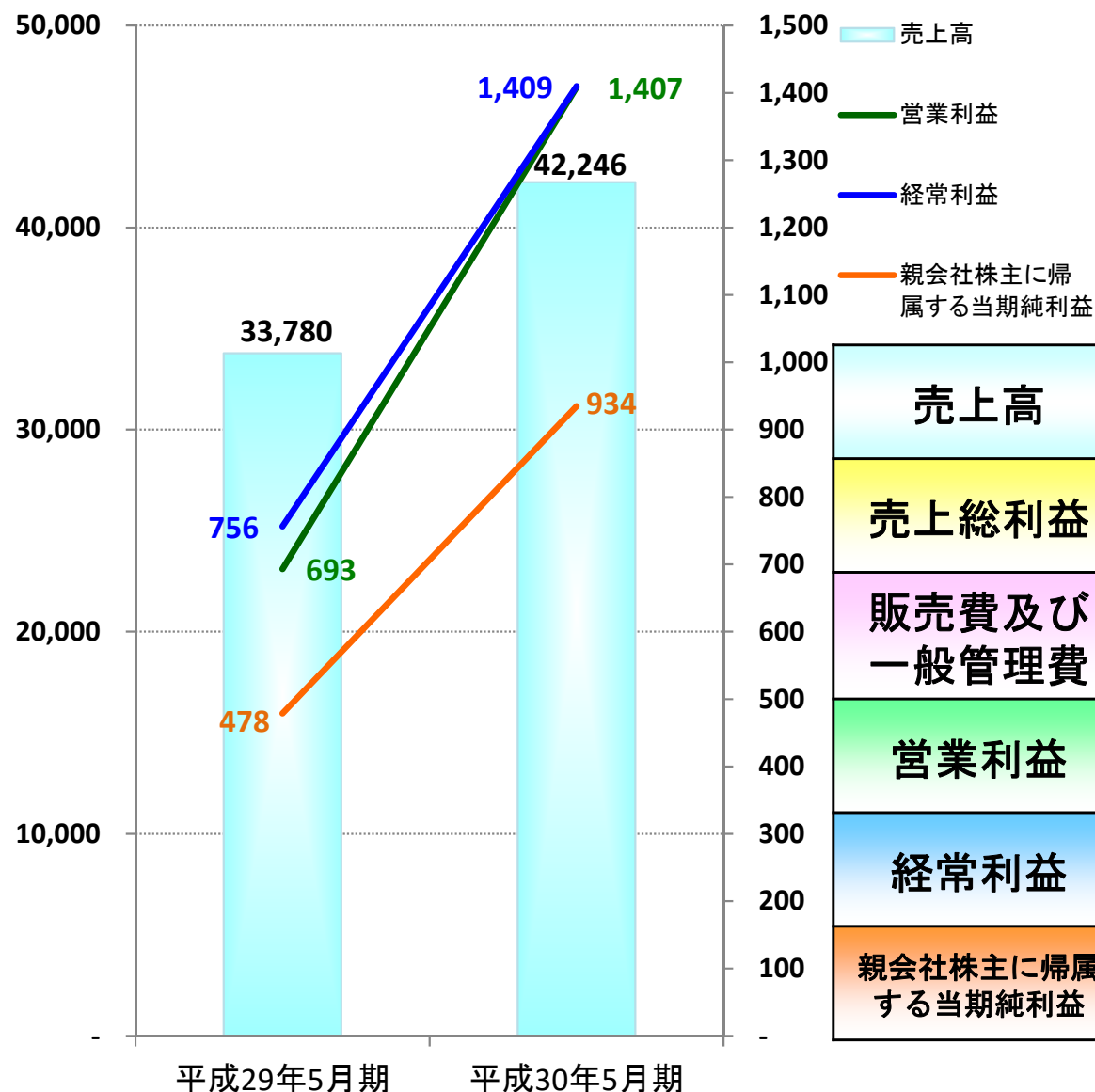
当社は時代のニーズに合わせて自らを変革し、発展を遂げてまいりました。

(売上高:億円)



2-1 平成30年5月期 決算概要

(単位:百万円)



	平成29年 5月期	平成30年 5月期	
	決算 実績	決算 実績	前期比
売上高	33,780	42,246	+ 25.1%
売上総利益	3,025	3,873	+ 28.0%
販売費及び 一般管理費	2,332	2,465	+ 5.7%
営業利益	693	1,407	+ 103.1%
経常利益	756	1,409	+ 86.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	478	934	+ 95.3%

2-1 平成30年5月期 決算概要

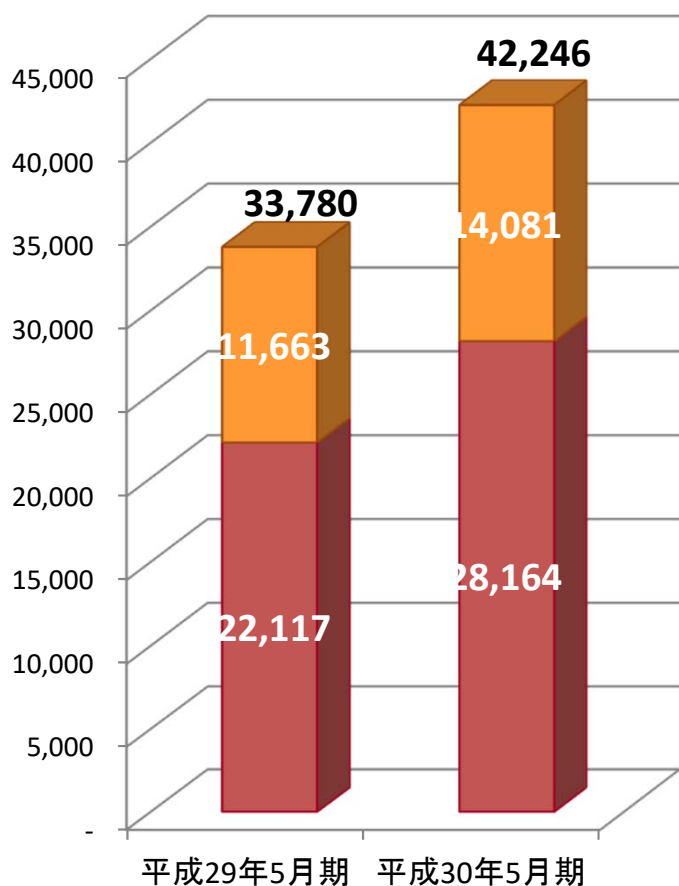
Creative Innovation

	平成29年5月期	平成30年5月期	
	決算 実績	決算 実績	増減
1株当たり当期純利益	65.14円	126.65円	+ 61.51円
自己資本当期純利益率	6.9%	12.1%	+ 5.2%
総資産経常利益率	5.2%	8.7%	+ 3.5%
売上高営業利益率	2.1%	3.3%	+ 1.2%
総資産	15,620百万円	16,781百万円	+ 1,160百万円
純資産	7,089百万円	8,381百万円	+ 1,291百万円
自己資本比率	45.2%	49.8%	+ 4.6%
1株当たり純資産	961.59円	1,058.16円	+ 96.57円

平成30年5月期決算 実績

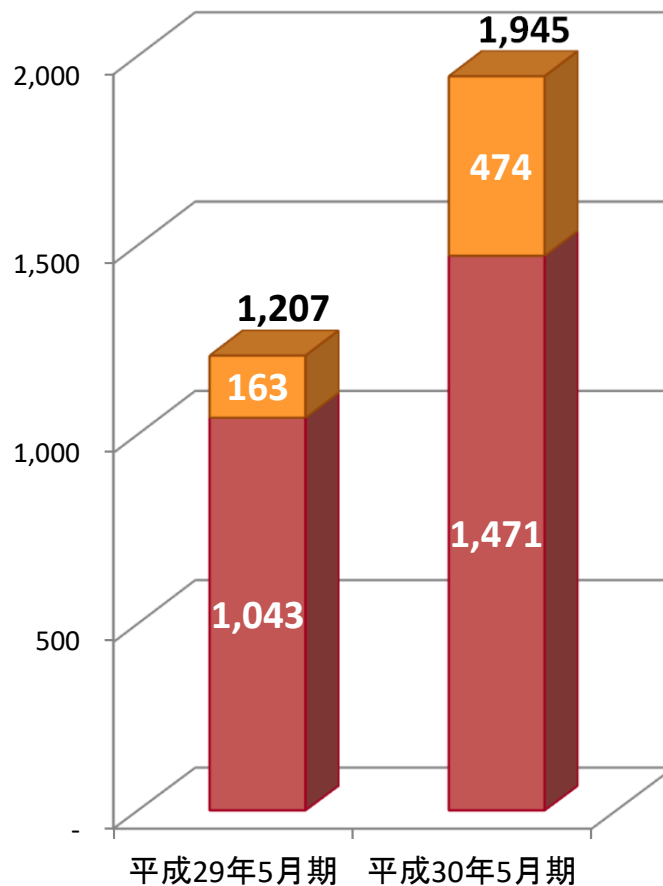
セグメント別売上高

(単位:百万円)

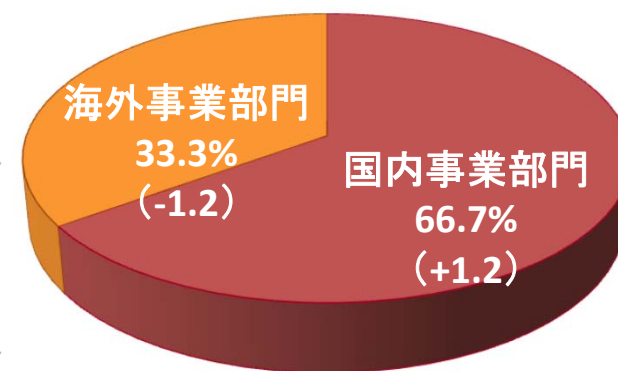


セグメント別利益

(単位:百万円)



セグメント別売上構成

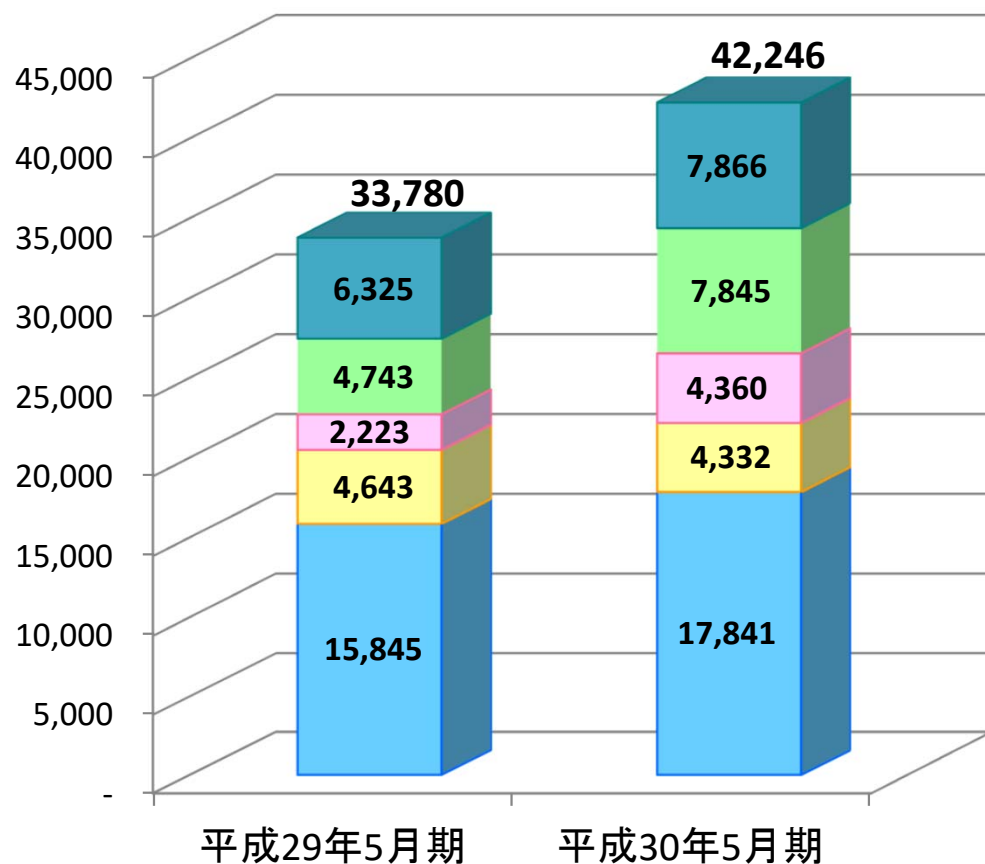


- 海外事業部門
- 国内事業部門

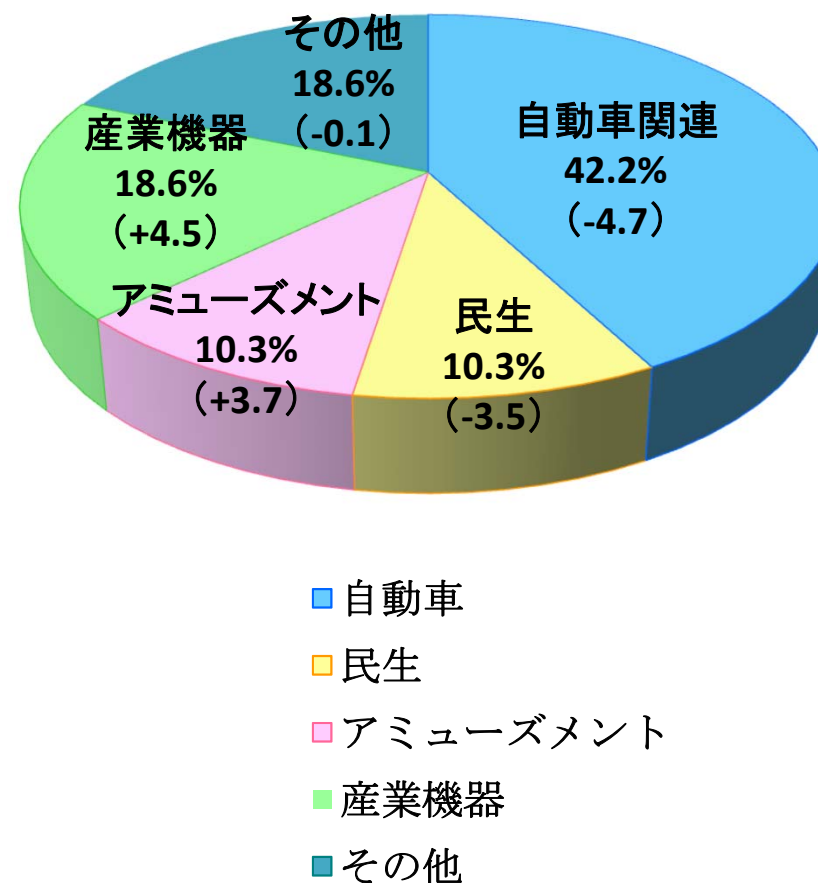
平成30年5月期決算 実績

分野別売上高

(単位:百万円)



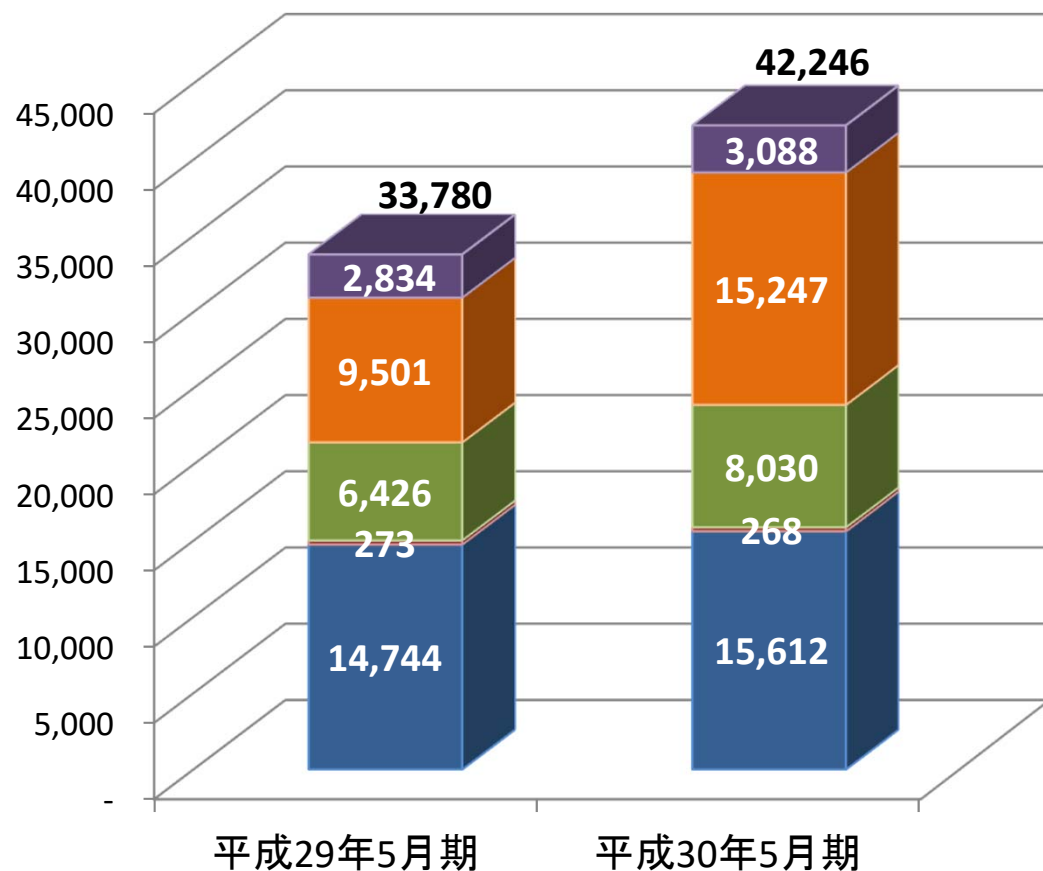
分野別売上構成



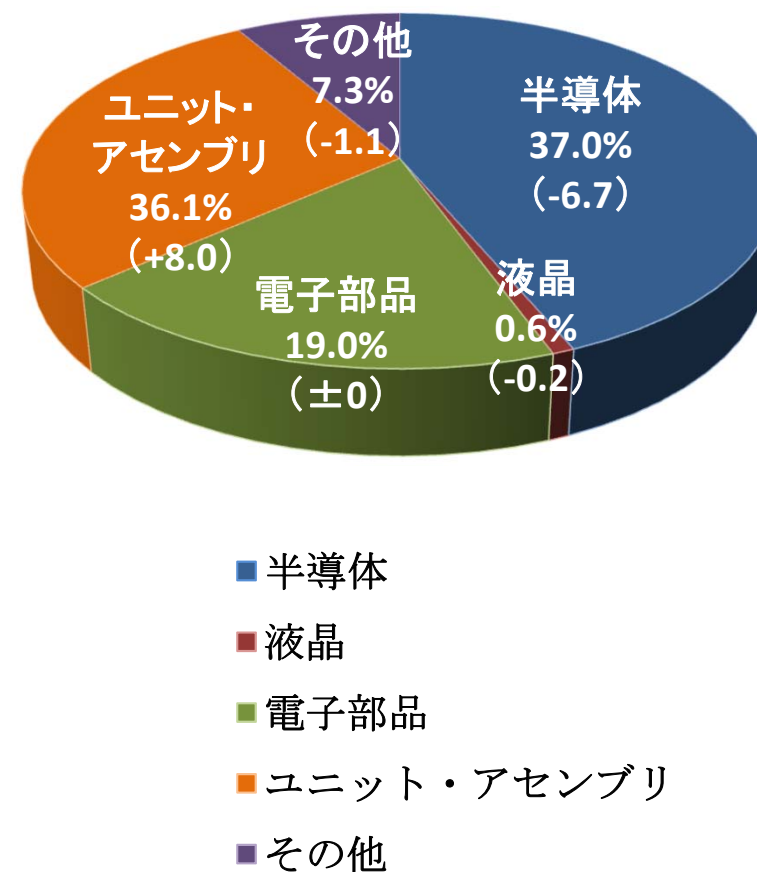
平成30年5月期決算 実績

品目別売上高

(単位:百万円)



品目別売上構成



3 平成30年5月期 貸借対照表の概要

(単位:百万円)

	29年5月期 期末実績	30年5月期 期末実績	前期末比 増減額	主な増減理由	
資産合計	15,620	16,781	1,160	現金及び預金	133
流動資産	14,047	15,124	1,077	受取手形及び売掛金	95
固定資産	1,573	1,656	83	電子記録債権	84
				たな卸資産	907
				関係会社株式	72
負債合計	8,531	8,400	△130	支払手形及び買掛金	△457
流動負債	8,320	8,198	△122	電子記録債務	390
固定負債	210	201	△8	短期借入金	△126
純資産合計	7,089	8,381	1,291	資本金	294
				資本剰余金	286
				利益剰余金	751

4 平成30年5月期 キャッシュフロー計算書の概要

Creative Innovation

(単位:百万円)

	29年5月期 期末実績	30年5月期 期末実績	内 訳	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△140	312	たな卸資産の増加	△975
			税金等調整前四半期純利益	1,300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△125	△475	有形固定資産の取得による支出	△283
			貸付による支出	△164
財務活動によるキャッシュ・フロー	△146	287	短期借入金の純増減額の減少	△107
			配当金の支払額	△183
			新株予約権の行使による株式の発行による収入	585
現金及び現金同等物の増減額	△433	133		
現金及び現金同等物の期末残高	1,068	1,201		

5 平成31年5月期 業績見通し

Creative Innovation

【連結ベース】

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
400億円	10.5億円	11.1億円	8億円

6-1 中期経営計画（Creative Innovation 2020）

【連結ベース】 2020年度（平成33年5月期）目標



Creative Innovation 2020

① コアビジネスの強化・拡大

- ・自動車・産業機器分野へのさらなるビジネスの探求
- ・海外拠点の強化
- ・EMS、IoTなどソリューションビジネスの強化

② 新規ビジネスへのチャレンジ

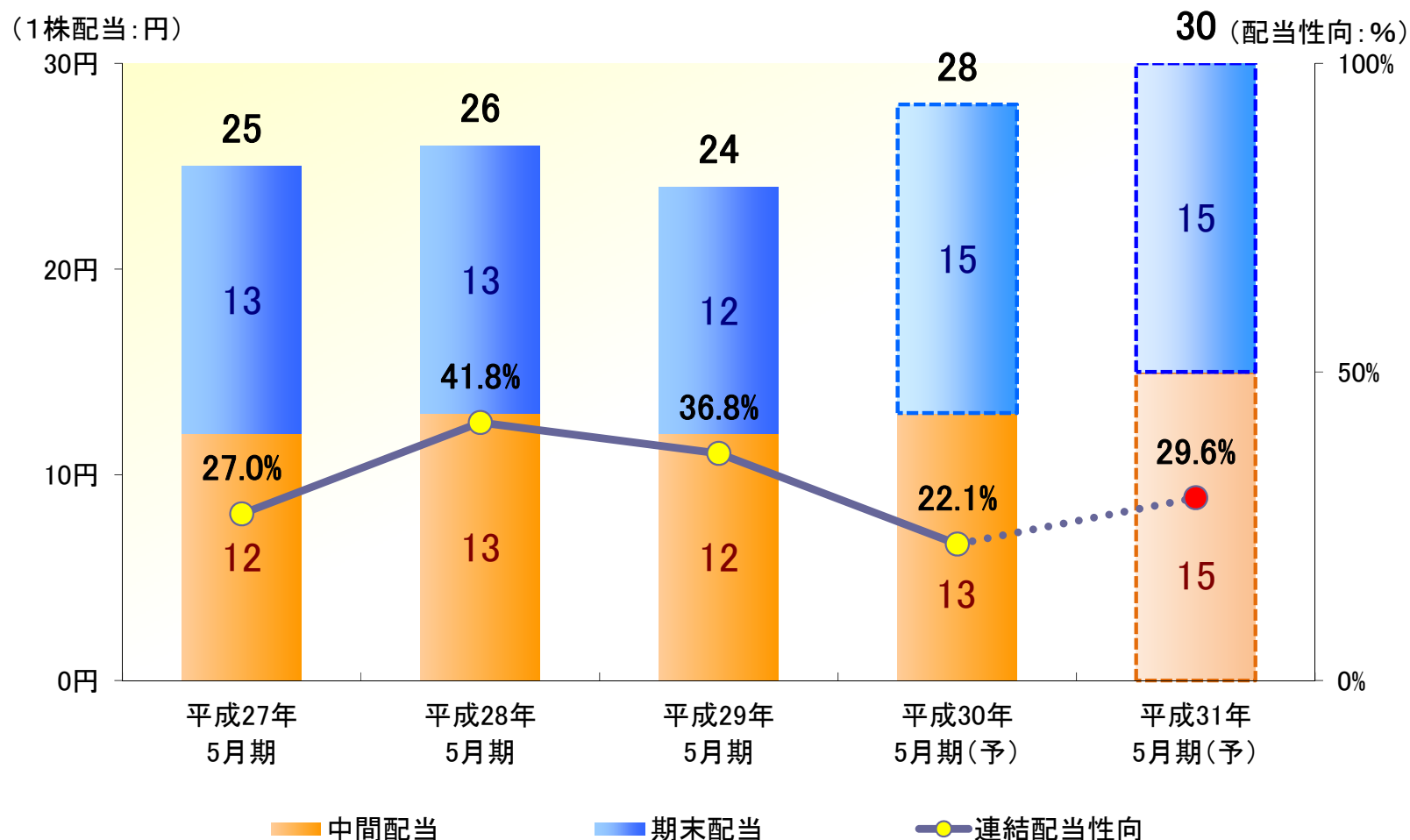
- ・新しい事業分野への挑戦
- ・得意な分野を有するパートナーとの協業

③ 経営基盤の強化

- ・人材育成の充実
- ・IT活用による販管費の削減
- ・グループの再編

7 株主の皆様への還元方針

平成31年5月期 年間配当 1株につき30円



IRに関するお問い合わせ窓口



 **三ツ子産業株式会社**

<http://www.mitachi.co.jp>

お問い合わせ窓口：経営企画室 TEL : 052-332-2596
FAX : 052-332-2536

※本資料は、当社が現時点で把握可能な情報に基づいて判断した業績予想を記載しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがあります。